

令和元年

季刊

秋季号

Vol.71

亞東



台湾總統府にて(令和元年10月10日)



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七-四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々協力され、自ら發起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷	三頁
目次・協会役員名簿	四頁
多（おおの）日本台湾親善協会副会長逝去	五頁
二〇一九年 台湾國慶節表敬訪問	六頁
蔡英文總統 國慶節演説	一〇頁
日本台湾親善協会の旅行に同行して	一四頁
令和の時代を迎えて	一五頁
事務局だより・新入会員のご紹介	一八頁

令和元年5月14日

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	張建国	張 碧華							
	並木 正芳	柴田 徳文							
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
	岩田 善信								
理事 20名	衛藤征士郎	張 建国	張 碧華	並木 正芳	赤松 則宏				
	崎谷 秀彦	山 雅康	小 松	益山 康	伊野 平野				
	柴田 徳文	藤 恭亮	森 富田	岩城 明石	野 岩田				
	榎本 有里	金子万寿夫	富田 家彰	光英 散人	善 達男				
監事	2名	李 八口ルド	鈴木 慶一						
事務局		崎谷 秀彦							
		李 孔曉							

一般社団法人 日本台湾親善協会



多(おおの)日本台湾親善協会副会長逝去



日本台湾親善協会副会長
長多忠和氏は二〇一九年八月一六日逝去されました。享年八二歳。

多氏は昭和十二年一月二七日のご生誕で、昭和三〇年に法政大学第一高等

学校をご卒業された後、日活株式会社俳優部で第三期日活ニューフェイスとして活躍されました。

一九六一年より音楽制作出版会社の経営などを経て一九九一年より電子学園芸術系企画課長に就任され教育部門の管理職を歴任、二〇〇〇年に学校法人電子学園理事長代理に就任されました。

二〇〇一年に理事長に就任され二〇一六年からは学園長となられ、新宿区専修学校各種学校協会会長や東京商工会議所新宿支部副会長などを務められて、日本の電子教育や社会発展に貢献されてこられました。

当協会の活動においては、長く会員、理事として参加され、平成一八年に理事、平成二八年からは副会長として多大のご尽力を頂いてまいりました。

故多副会長の協会に賜りましたご貢献に深く感謝申し上げますとともに、ご冥福を心からお祈りいたします。



二〇一九年度 台湾國慶節表敬訪問

業務執行理事 岩田 善信

羽田国際線ターミナルに近い「ホテルJALシティ羽田」は送迎バスがあるので、長男と泊まり、翌日九日の早朝、中華航空のカウンターに集合した。

今年、急に長男の憲明と長女の真子が蔡英文總統にお会いしたいと言い出し、日本台湾親善協会の李孔曉事務局長に相談したところ、

ご厚意により国慶節表敬訪問に同行することが出来た。長女は海外出張経験が多いので、自分で旅行会社と折衝し別便で台湾に向かった。

松山国際機場には一〇時ころ到着し、同行の初対面の人たちと遅ればせながら名刺交換した。国賓ホテルのエグゼクティブラウンジで入室の用意ができるのを待つ間に長女が到着し同行者に紹介をした。現地集合の張建国・副会長を交えロイヤル台



郭仲熙 台日関係協会秘書長主催の招宴

北で昼食をとり、食後エバーリッチという免税店へ全員で向った。

夜、台湾日本関係協会・郭仲熙秘書長主催の宴席には、衛藤征士郎会長及び金子万寿夫議員及び台湾外交部の資深日文翻譯・蘇定東様も同席した。郭仲熙秘書長は日本語でダジャレを言うことが出来るほど日本通の方である。この表敬訪問の終わりころ、赤松則宏専務理事が郭仲熙様の伝記を日本で出版したいと言い出した。

十月十日、国慶節の式典に参列するため一六名がバスで總統府前の会場に向かった。今年の国慶節は大変日差しが強く、事前に頂いた幅広の麦わら帽子タイプの帽子、今年日本でも流行ったUSBで充電できる小型折り畳み扇風機が有り難かった。終わりころには長女の肩は日焼けしていた。最前列の椅子に座れる場所に誘導して頂き、陸海空のパレードなどでは隊員の息遣いも感じられた。パレードが終わらない中に帰り始めたが、バスのところまで道路



郭秘書長を囲んで

を横断出来ず、トイレも探せず、大変な思いをしてしまった。

蔡總統の式典演説は、一二分ほどだったが、その力強さに大変感心した。日本台湾親善協会の面々全員が午後四時ころ蔡總統へ表敬訪問した折、衛藤征士郎会長が「本日の蔡總統の演説は大変力強く、そしてまさしく東アジア・台湾のリーダーとしての気迫がみなぎった、大変頼もしく思う演説であった。」と述べたほどである。

總統府で蔡總統を待つ間に頂いたお茶は大変美味しかった。お土産を頂いたが男性はネクタイであった。面会の最後に、蔡總統を間にして二人ずつして總統府専属のカメラマンに写真を撮って頂いた。私の長男長女は望んでいた蔡英文總統との写真撮影に畏まっていた。

午後五時からの国慶節祝賀会に参加するため着替え、迎賓館に向かった。諸外国の方々も多く賑やかな宴であった。一〇八



中正記念堂に集合し祝賀式典会場に向かう

を彫った氷の前で写真を撮ったりしていた。しばらくして、蔡總統も参つて来られ、会場を回られた。周りには大人数が取り囲んでおり笑顔で賑やかに回られていた。

迎賓館を出て、鼎泰豊（本店）に行き夕飯を頂いた。店の前には大人数が入店待ちで混雑していたが、予約を入れておいたみたく、テーブル席に着くことが出来た。料理は多くの種類が出たが、あつという間に片づけてしまった。大変美味しかった。ちなみに、迎賓館でも出店しており、長蛇の列が出来ていた。

翌日午前中は鶯歌の陶器市に行くグループと自由行動するグループに分かれた。私は、長男長女と故宮博物館に行った。故宮博物館には家族全員が三〇年ぶりだった。妻も別行動で来て、ここで家族に合流した。李孔曉さんからも「奥さんも一緒に国賓ホテルでの昼食に来れば良いのに」



記念式典会場にて



10月10日が誕生日の水越会員

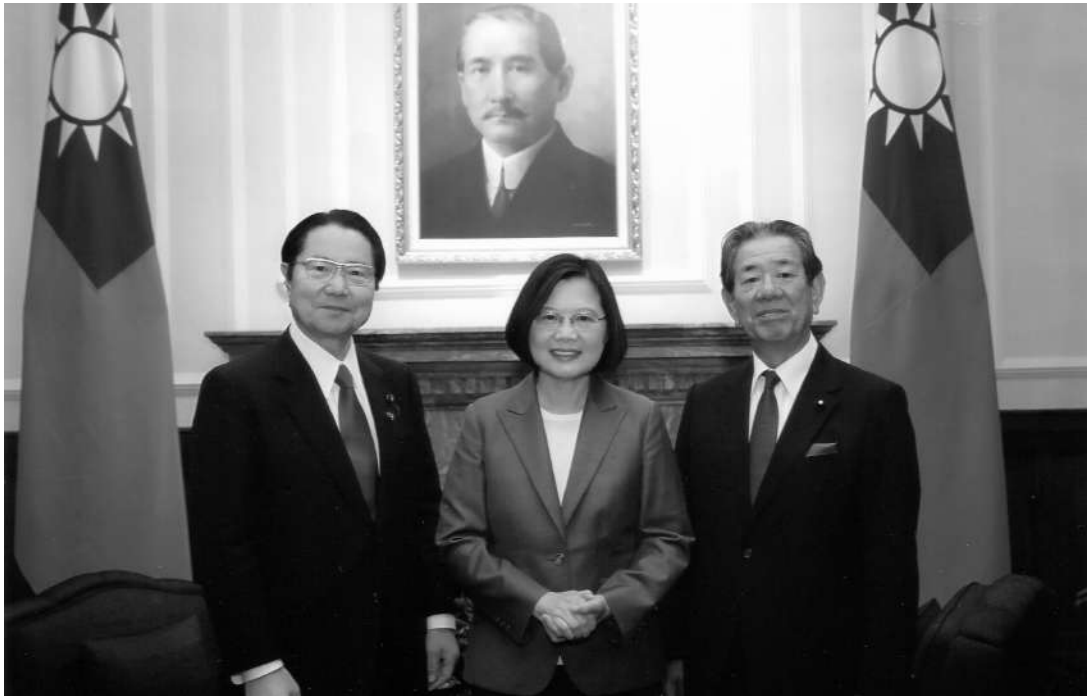
と言われたが、人見知りするタイプの妻は一人で故宮博物館めぐりをしていた。
一日妻長男長女は、九份に宿泊するので、私は皆と一緒に帰国した。
二〇二〇年五月には總統選後の總統就任式があるとの事で、日本台湾親善協会の方々は就任式に参列したいと言っていた。



儀仗隊の行進



總統府にて 蔡總統と会見



蔡總統と（衛藤会長、金子議員）



迎賓館にて

蔡 英文總統 國慶節 演説

二〇一九年一〇月一〇日



大会主席の蘇嘉全立法院長、
來賓各位、テレビやネットの
前の全国の同胞、皆さんおは
ようございます。

本日は中華民國一〇八年の
國慶日です。我々と共にこの
記念すべき日を迎えていただ
いている世界各地からお越し
の友人に対して感謝を申し上
げます。

昨年もまた國慶日に、私は皆さんに台湾は正に変動の中にい
ると申し上げました。世界の貿易情勢の変動、國際政治情勢の
変化によって、未来は挑戦に満ちています。我々は「安定を求
め、変化に対応し、進歩し」、実力を蓄え、台湾を強大にしな
ければなりません。

この一年を振り返ると、世界は依然としてめまぐるしく変化
しており、より激しくさえなっています。米中貿易戦争は継続
しており、我々と遠くない距離にある香港は、「一国二制度」

の失敗によって正に秩序を失い厳しい状態に陥っています。

このように、中国は「一国二制度台湾方式」を以て我々に絶
え間なく脅威を与え、言葉や武力を織り交ぜ様々な威嚇で、地
域の安定と平和に激しく挑戦しています。

全国の同胞各位、自由民主が挑戦を受けている中、また中華
民國の生存発展が脅迫を受けている中、我々は立ち上がり、守
りぬかなければなりません。「一国二制度」の拒絶は、二三〇
〇万の台湾人民、党派に関わらず、立場に関わらず、最大の共
通認識です。

中華民國が台湾に成立して既に七〇年を超えており、一旦
「二国二制度」を受け入れてしまえば、中華民國が生存できる
空間はありません。総統自身が国家主権を守るために立ち上が
ることは、挑発ではなく、私の最も基本的な責任です。

七〇年来、我々はこれまで数々の厳しい挑戦を経験してきま
した。ひとつひとつの挑戦は我々を打ち負かすことができなかつ
たばかりか、我々を更に強靱に、揺るぎないものとしてきまし
た。

我々は、八二三砲撃戦（注：一九五八年の金門島砲撃戦）や

九六年の台湾海峡危機を経験してきました。言葉や武力によるひとつひとつの威嚇に対しても、台湾人民がそれに屈したことはありません。我々は根を下ろしているこの土地を共同で守り抜き、国家主権を守り抜いてきました。

我々は、国連から脱退したパニックを経験し、また数々の断交の圧力も受けてきました。しかし、台湾人民が世界に向かって進むという決心は、これまで一度も変わったことはありません。

一九七〇年代のオイルショック、一九九七年のアジア金融危機、二〇〇〇年のネットバブル、それから一〇年前の金融危機。経済は常に挑戦に満ちていますが、トランクひとつで世界を駆け回る台商と、勤勉で創意に満ちた台湾人民は、危機をチャンスに変え、台湾経済を前進させてきました。

我々は八七水害（注：一九五九年の台湾中南部水害）、九二一地震（注：一九九九年の台湾中部大地震）、SARS、八八風災（注：二〇〇九年の台風八号災害）を経験してきました。しかし災害や病疫の苦難は、台湾人民の生存の意思を打ち負かすことはできませんでした。家が壊れれば、再建し、土地が被害を受ければ、復旧してきました。涙をぬぐい、また立ち上がることで、明日を希望に満ちた一日としてきました。

このような共通の記憶は、台湾人民の強韌性を示すものです。このような強韌性があるからこそ、我々は、アジアNIE Sの一員となることができたのです。このような強韌性があるからこそ、我々は、民主化の困難な道のを乗り越え、世界でも重要な民主の模範となることができたのです。

我々が歩んできた道は、どのような党派であれ、この土地で生活する人民と切り離すことはできません。中華民国は誰かの専売特許ではなく、台湾もまた誰かが独占できるものではありません。「中華民国台湾」という六文字は、青（国民党）のものでなく、緑（民進黨）のものでもないことは、社会全体の最大の共通認識です。

未来を展望すると、多くの挑戦にあふれており、我々はひとつひとつ克服していかなければなりません。

我々は、中国の台頭と拡張が、民族主義及び経済力と結合した権威主義体制を以て、自由民主の価値と世界秩序に挑戦していることを目の当たりにしています。故に、インド太平洋地域戦略の前線に立つ台湾は、民主価値を守る第一防衛線となっています。

中国は、「シャープ・パワー」を利用して、一步一步我々に迫ってきていますが、我々は、台湾が地域の重要なメンバーとして、国際的な責任を果たす必要があることを明確に認識しています。我々は挑発せず、暴走せず、理念の近い国家と協力して、台湾海峡の平和と安定を確保し、一方的に（現状を）変更されないようにします。

これらを成し遂げるために、我々は団結しなければなりません。台湾社会はかつて、エスニシテイ、世代、信仰、党派の違いに起因する争いを経験しました。しかし、対話を通して、我々は必ずや、お互いが受け入れることができる最大公約数を見つけ出すことができます。我々の経験は、衝突、対話、団結進歩が、国家を正しい方向に導くことを証明しています。

我々はまた、自由民主の価値を堅守しなければなりません。台湾人民は、かつて民主化の艱難な道を共に歩んできました。民主は時として争いも生じますが、民主制度があつてこそ、苦勞の末に手に入れた自由が保障され、次の世代に未来を決定する権利を持たせることができます。

我々はまた、引き続き台湾を強大にさせなければなりません。三年余りにわたつて、我々は経済構造の調整に努力を払い、産業のアップグレードと転換をリードし、国際的な多元化を推進

してきました。また我々は、対台投資の爆発的な発展を歓迎し、グローバル経済の変化の中で、足取りを固めます。我々の方向は正しく、確かな足取りで歩みましょう。

三年余りにわたつて、我々は社会公平の擁護に努力し、賃金を増やして税金を減らし、全国民が経済成長の果実を享受できるように、全面的に配慮してきました。今後、長期介護二・〇のアップグレードを推進し、幼児保育補助の拡大を推進し、民衆の負担を軽減し、一人一人が良質な福祉を享受できるようにします。これは政府が今後引き続き努力する方向です。

三年余りにわたつて、我々は自主国防を推進し、先進的な兵器を購入し、国軍の士気を高め、戦力を充実強化してきました。国産の高等訓練機のプロトタイプが最近完成し、国産の艦艇も今後陸統と配備が予定されています。国土を防衛し、自由民主を堅く守ることは、まさに国軍の任務です。

三年余りにわたつて、我々は国際社会に積極的に参与し、責任を果たし、貢献し、地域の平和と安定を擁護するために不可欠の善良な力となってきました。我々は引き続き理念を近くする国々と手を携え、さらに多くの実質的な協力の機会をつかみ取っていきます。

未来の路線ははっきりしており、目標もまた明確です。

第一に、全国民を自由民主の旗の下に引き続き団結させ、国家主権を防衛することです。

第二に、台湾を引き続き強大にし、経済力を強化し、民主を富ませ、国を強くすることです。

第三に、世界に向かって積極的に進み、挑戦を克服し、中国台湾が国際舞台において、頭を上げて胸を張り、勇敢で自信に満ちたものとする 것입니다。

前四半期（注：二〇一九年第三四半期）、我々の経済成長率はアジアNIE Sのトップに返り咲きました。世界経済フォーラムは、我々を四大「スーパードットコム」の「スーパードットコム」の一つと評価しています。我々のハイテクとイノベーション産業は、世界の最先端を歩んでいます。

我々のスポーツ選手や、高い技術を持つ職人、創意あふれるデザイナーや芸術家が、国際的な舞台で光り輝き、熱意を放っていることは、台湾にとつての荣誉と誇りです。

我々が自主製造したフォルモサト五号衛星（FORMOSAT-5）やフォルモサト七号衛星（FORMOSAT-7 / COSMIC-2）が次々と打ち上げ

られ、航空宇宙科学技術の実力を示しています。人類による史上初めてのブラックホールの映像撮影にも、台湾の科学チームが参加しました。

我々は宇宙に行つて、五五〇〇万光年の彼方にあるブラックホールさえ目にする事ができるのであれば、我々が勇気を持つて立ち向かうことのできない挑戦などあるでしょうか。

歴史的な苦難は、我々の強靱性によつて、成長のためのパワーへと転換されるでしょう。自然災害の挑戦は、我々の努力によつて、再生のための契機となるでしょう。この土地の一人一人の努力が、我々の国家を日ごとに良いものとし、進歩させるでしょう。

国慶日を迎えた本日、この土地のすべての人民は、みな自由民主の旗のもとに団結し、希望をもつて未来に向かい、必ずや挑戦を克服します。台湾に天のご加護を。台湾頑張れ。中華民国頑張れ。ありがとうございます。

日本台湾親善協会の旅行に同行して

岩田 恵明

今回、父が理事をしている日本台湾親善協会において総統とお会いできる機会があると聞き、無理を言って同行させて頂く事になった。色々手配して頂いた、李さんには感謝しかないです。ありがとうございました。

実際旅行に参加させて頂いて、素晴らしいホテルに美味しい料理、何処へ行くにもバスで連れてって頂きこんなに快適な旅行は他にないと言えるほど快適でした。そして素晴らしい方々との出会いや台湾政府の方達との交流、何より総統とお会いできるなんて本当に貴重な機会を頂きありがとうございました。

今回の旅行の経験で何より記憶に残ったのは、ハギビスこと



『台風一九号』でした。今回の旅行中の一〇月二日（土）に猛烈な勢力で日本に上陸し、猛威を振るい甚大な被害を及ぼしました。私達は台湾にいたため全く被害は無かったですが、土曜日のフライトは欠航し、日曜日の夜中に帰国した私は、管轄する佐野市が秋山川の氾濫を受け被害が大きく、帰国早々通常業務に加え、

台風の後始末に追われました。文字通り『天国から地獄』を味わったのが今回の旅行の思い出になりました。次回は地獄の無い旅行を予約したいと思っています。

日本台湾親善協会の旅行に同行して

岩田 真子

今回初めて日本台湾親善協会の国慶節表敬訪問に父に便乗して参加をさせていただきました。初対面にも関わらず李さんはじめ参加者の皆様にはとても良くしていただき大変感謝をしております。

台湾はこれまで個人旅行で一〇回以上訪れていましたが、蔡総統にお会いできる機会はもちろん一度もなく大変貴重な体験をさせていただきました。台湾人の友人も複数おり、東日本大震災の際信じられないほどの寄付をしてくれた台湾には常に特別な思いを持っていたので、その総統にお会いできるというのは大変感慨深いものでした。総統は穏やかな笑顔と親しみやすさを感じつつも一国を背負っているオーラを感じ、また活躍する女性のリーダーという視点からも刺激をいただきました。ちょうど香港の暴動がニュースになっている中での総統のスピーチでしたが、台湾では同じような暴動が起こらず、台湾にとつて望ましい姿でこれからも平和な国であり続けてくれることを台湾好きな日本人として切に願っています。

改めてこのような素晴らしい機会をいただけた今回の表敬訪問に感謝申し上げます。

令和の時代を迎えて

柴田 徳文



この雑文をお読みくださる皆様におかれては、これからお示しするのは筆者の全くの個人的な感想で、日本台湾親善協会の意見や立場をあらかわすものではなく、またそれらと一切関係がないことを最初にご理解頂きたいと存じます。

さて、いよいよ令和という新しい時代が始まりました。五月の践祚に引き続き十月の即位礼正殿の儀、そして十一月の大嘗祭をへて天皇陛下のご御位が定まります。テレビで拝見いたしましたおりましたが、即位礼正殿の儀の荘厳なことには体が震える思いでした。式典直前にそれまでの雨天が晴れ渡り虹まで出るという神秘を目の当たりにして、ご皇室のありがたさを感じざるをえませんでした。誰しも令和の御世が洋々たるもので、希望にあふれるものであることを疑わなかったでしょう。

筆者も同じように新たな御世を寿ぎたいのですが、畏れ多くかつ残念ながらそれとは異なる予感に囚われています。新しい時代は混乱と大変化に満ちたものとなるものと恐れております。今日までの内外の歴史を俯瞰するとそのように思わざるをえないのです。ではなぜそのような不吉な感想を抱いたのかご説明いたしたいと思しますので、少しお時間を頂ければ幸いです。

それは、一言で申しあげれば、かつての戦争の帰結がなせる

ものと考えているからです。大東亜戦争と第二次世界大戦が残して行ったものが、わが国と世界に襲い掛かって来るのです。

もう七〇年以上も前に終結しているはずの大戦ですが、実はその後始末は未だについていかなかったのです。先の大戦がもたらした結末はあまりにも巨大なものであったため、その歪みがあらわになるためには長い時間が必要だったのです。またそれによって本来ならば得られないはずの利益にあずかった人びとが社会の中核を占めたため、戦後の様々な矛盾が隠蔽されてきたのです。

しかし最早それらを抑えておくことは不可能となりました。世界中で戦後体制の構造的矛盾が吹き出しています。

それらは例えば、わが国においては、アメリカの占領政策に根源を持つ諸々の社会構造です。憲法改正や教育改革、皇位継承問題、若者の無軌道無関心など枚挙に暇ありません。占領政策は日本の弱体化を目指したものでありましたが、今見事に花開いたと言わざるをえません。

また世界対して先の大戦がもたらしたものは何でしょうか。それは欧米の一握りに人びとによる、経済を通じての世界支配なのです。第一次世界大戦によって従前の覇権国イギリスの地位をアメリカが奪い取りました。そして第二次世界大戦を経てそれを完成させました。ソ連と血みどろの闘争をしていたように見せかけていましたが、実はアメリカの経済的世界支配構造が出来上がったのです。欧米の超富裕層たちがアメリカの軍事

力を彼らの利益のために使う体制が出来上がりました。それによつてアメリカ国内の富ばかりでなく世界中のカネを掻き集めているのです。彼らは世界中から富を集めています。アメリカ国民を潤しているのではありません。アメリカ国民からも収奪しているのです。トランプ現象と言われるものは、それに対する造反現象なのです。

イギリスの離脱をめぐつて混乱しているEUも、同じ文脈で作られたものです。ヨーロッパ中の富を欧米の富裕層たちが支配するためのものです。支配のために国家の枠組みを壊し、国家が自由にそれぞれの国家経済を統制することができなくなるものです。

アメリカやヨーロッパで起こっているナシヨナリズム運動は、経済のグローバル化する言葉を隠れ蓑にして自分の懐の中にカネを詰め込んでいる人びとへの反撃なのです。

中国の台頭も同じ流れの一部です。超富裕層の人びとは、中国の富の入手と日本の政治的経済的支配のために中国を育て上げました。今日それは素晴らしい成功をおさめました。昨今のトランプ氏の中国攻撃は、その実態はこの富裕層との戦いなのです。

このような体制はもはやうまく行かないようになりました。彼らのなりふり構わないやり口によくの人びとが気付いて来ました。人口のパーセントの人びとが全ての富の半分を所有していることのおかしさを理解してきたのです。

実に戦後体制が育て上げてきたものは、全ての人びとの幸福ではなく、一握りの人びとの際限ない貪欲でした。日本を含む世界がそのことをしつかりと、あるいは人によつてはボンヤリとながらも、自覚するようになってしまったのです。

今後の世界的混乱や大変革の根源はそこにあるのです。しかしながら戦後世界のそのような矛盾を是正することは、それによつて巨万の富を手に行っている人びとの利益と正面から衝突することを意味するのです。既得権益層はそれを安易に許すはずはありません。熾烈な戦いになることは必至です。

わが国の過去を省みると、戦後の昭和期は敗戦への圧倒的な無力感と生き残るために、これらの矛盾を解決するどころか指摘することすら出来ませんでした。やっと戦後の破壊から立ち直った平成の時代は、昭和の経済成長の遺産を食い潰しただけで、矛盾が存在することにひたすら目をつむつてきました。しかし令和を迎えた今日、それらの矛盾は圧倒的な力で我々のまえに立ちはたかっています。もはや逃れることが出来なくなりしました。国外にあるそれも同様です。国内も国外も混乱と大変化が待ち受けています。従つて、世界のすべての国民が、好むと好まざるとにかかわらず立ち向かわなければならぬのです。

そして、この挑戦に勝ち残った国民が、その先の世界をリードするのである。ではどのような国民が残つて世界をリードするのでしょうか。それには様々な資質が求められますが、最

も大切なものは利他の精神でしょう。世界は利己主義にはもはや十分に悩ませられてきました。もはや不要です。この世界には間もなく百億人が住むようになります。地球の限られた資源の中で、人びとは助け合う以外に生き残ることはできません。自己の利益を抑えながら他の人びとの幸せを願うことのできる国民こそがそれを担わなければなりません。

日本の人びとにはそのようになれる要素があると思います。昭和、平成の困難を日本人が克服できたのは、まさにその資質に依ったからです。大規模地震や台風・大雨の災禍の中で譲り合いの美徳を何の衒いもなく当たり前のこととして行った国民なのです。

令和の新時代は、そのような人びとがますます育ってゆく時代になってほしいものだと希望しています！



事務局だより

*新入会員のご紹介

平成三十一年四月一日〜令和元年十月三十一日

(株)ジョイフル	課長	山本 大市
(株)ひろ・コーポレーション	代表取締役	四維 宗暁
(株)若生技建	取締役会長	若生 隆
平川商事(株)	代表取締役	平川 晴基
石井酒造(株)	代表取締役	石井 誠
(株)赤井製材所	代表取締役	鈴木 裕一
大分瓦斯(株)	代表取締役社長	福島 知克
(株)フレックス	代表取締役	本田 雄三
中日本エクス株式会社	チーフリーダー	山崎 直樹
オリオンビール(株)	代表取締役社長	与那嶺 清
(株)クレイシア	代表取締役	吉川 幸希
(有)ライフアメンティ		
みなみ信州農業協同組合		
新個人会員		
戸村 由美		

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和元年 秋季号 (No.71)

発行日 : 令和元年11月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユウ



台湾の翼

チャイナ エアラインなら、
うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



www.china-airlines.com/jp/jp